

石造延命地蔵菩薩立像(夕間地蔵)



指定区分	県指定重要文化財(建造物)
読みかた	せきぞうえんめいじぞうぼさつりゅうぞう (ゆうまじぞう)
所在地	新見市西方
指定年月日	昭和60年4月2日
解説	正平12年(1357)の造立。和泉砂岩製。総高1.2m、像高0.89m。台座から仏身、舟型光背まで一石で造ってある。右手に錫杖、左手に宝珠を持つ延命地蔵で、俗に「夕間地蔵」と呼ばれ、同市正田「朝間地蔵」「昼間地蔵」等とともに、一連の像と考えられ、新見付近への地蔵信仰の広がりを物語っている。尊像の左に年銘が刻まれている。像の胸部・足部あたりで折損している。
アクセス方法	
公開状況	
設備	
備考	